

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立喜佐方小学校

1 自己評価書

教育目標	笑顔で登校 満足して下校する児童を育てる					
基本方針	1 自ら学ぶ意欲を持った児童を育成する。 2 心身ともに健康で、根気強く取り組む児童を育成する。 3 思いやりと優しさを持った児童を育成する。					
本年度重点目標	1 地域とともにある特色ある学校づくりの推進 3 健やかな体を育てる教育の推進 5 互いの人権を尊重する教育の推進と特別支援教育の充実		2 確かな学力の定着と向上 4 豊かな心を育てる教育活動の推進 6 教職員の資質・能力の向上と働き方改革			
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	C		
			・児童生徒アンケート	A		
	②	授業改善	ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	C	A
			・児童生徒アンケート	A		
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	C	
	・保護者アンケート	A				
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A
・保護者アンケート				B		
④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B	
			・保護者アンケート	D		
			・児童生徒アンケート	A		
⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	D	C	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
(成果と課題) ○EILSを使用するテストや復習プリントを作成し、適宜実践した。複数回実施し、知識・技能を定着させることができた。 ○宿題は読書と自学に絞り、自学にじっくり取り組ませる日を設定した。すると、自学に熱心に取り組む児童が増え、内容も充実した。 ●家庭ではゲームやYouTubeに時間を費やす児童が多く、読書習慣が定着しない。						
(改善策等) ・喜佐方タイムを有効に活用し、読解ドリルやディベート、読書などの時間をバランスよく確保して、児童の学力の定着に努める。 ・外部講師を依頼したり、地域コーディネーターと連携したりして、校外フィールドワークなどの活動を広げる。また、校内研修会で動画等を利用して、教職員が地域教材について学ぶ機会を持つ。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	②	児童生徒の健全育成	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	C		
	②	児童生徒の健全育成	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
・児童生徒アンケート			A			
・保護者アンケート			A			
③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	A	A	
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	A		
④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	A	
		・児童アンケート	A			
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B		
・児童アンケート	A					
(成果と課題) ○不登校対応については、定められた方法に沿ってチームとして対応できた。 ○教育相談で、担任以外の先生方に話を聞いてもらうことで、今まで気付いていなかったことが分かり、対応や配慮につながった。 ●ゲーム機の使用が長い児童がいるので、具体的に指導を行ったが、改善されていない。						
(改善策等) ・学級活動や集会などで意識付けを行うとともに、ルールづくりについては家庭と連携を図り、よりよい方法を模索していく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D B	C
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○時間外勤務を意識し効率のよい仕事ができるよう、教職員一人一人が自分なりの働き方を目指した。 ○学期末特別校時期間を設定することで心も体も余裕が持て、学期末の事務処理が効率よく進んだ。 ●働き方やそれに対する意識の持ち方について、教職員で話し合う機会を持った。多少の変容はあったものの超過勤務の減少にはつながっていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・「出勤・退庁調査」を分析し、業務改善に向けての取組が有効かどうかを確認しながら積極的に取り入れる。 ・業務改善に向けた取組については、児童・保護者・地域の立場に立って審議し、積極的に取り組んでいく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・保護者アンケート	A	
・地域アンケート		A			
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会に代表児童が参加し、地域のイベントや防災訓練についての全校の意見をまとめて述べる事ができた。 ○学校への問合せや相談には、早急に電話や面談で対応し、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・統合までの最後の一年が思い出に残るよう、統合に向けてのイベントや学校行事に、地域の力をどのように生かすことができるかを、学校運営協議会等で共に考えていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満